

シラバス

科目の基礎情報1

授業形態	実技	科目名	美容ベーシックA - I		
必修選択	必修	(学則表記)	美容ベーシックA - I		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容研究科	2	60
使用教材	美容師国家試験 第2課題教材一式 改正美容師実技試験課題「衛生と技術の解説」 三幸学園オリジナル実技マニュアル 美容実習ノート		出版社	公益財団法人 理容師美容師試験研修センター	

科目の基礎情報2

授業のねらい	美容師国家試験第2課題について基本姿勢、知識及び構成、時間、仕上りのベースを理解して身に付ける。				
到達目標	美容師国家試験第2課題技術の基礎知識及び国家試験合格基準を目指す。				
評価基準	テスト50% 提出物20% 授業態度30%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	美容師免許				
関連科目	美容ベーシックB				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	森川薫奈	実務経験		○	
実務内容	美容室勤務4年				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オールウェーブセッティング	美容衛生（技術における衛生上の取り扱い） オールウェーブセッティング4H
2	オールウェーブセッティング	美容衛生（技術における衛生上の取り扱い） オールウェーブセッティング4H
3	オールウェーブセッティング	美容衛生（技術における衛生上の取り扱い） オールウェーブセッティング4H
4	オールウェーブセッティング	美容衛生（技術における衛生上の取り扱い） オールウェーブセッティング4H
5	オールウェーブセッティング	美容衛生（技術における衛生上の取り扱い） オールウェーブセッティング4H
6	オールウェーブセッティング	美容衛生（技術における衛生上の取り扱い） オールウェーブセッティング4H
7	オールウェーブセッティング	美容衛生（技術における衛生上の取り扱い） オールウェーブセッティング4H

8	オールウェーブセッティング	美容衛生（技術における衛生上の取り扱い） オールウェーブセッティング4H
9	オールウェーブセッティング	美容衛生（技術における衛生上の取り扱い） オールウェーブセッティング4H
10	オールウェーブセッティング	美容衛生（技術における衛生上の取り扱い） オールウェーブセッティング4H
11	オールウェーブセッティング	美容衛生（技術における衛生上の取り扱い） オールウェーブセッティング4H
12	オールウェーブセッティング	美容衛生（技術における衛生上の取り扱い） オールウェーブセッティング4H
13	オールウェーブセッティング	テスト
14	総合授業	振り返り
15	総合授業	振り返り

シラバス

科目の基礎情報1

授業形態	実技	科目名	美容ベーシックA - II		
必修選択	必修	(学則表記)	美容ベーシックA - II		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容研究科	2	60
使用教材	美容師国家試験 第2課題教材一式 改正美容師実技試験課題「衛生と技術の解説」 三幸学園オリジナル実技マニュアル 美容実習ノート		出版社	公益財団法人 理容師美容師試験研修センター	

科目の基礎情報2

授業のねらい	美容師国家試験第2課題について基本姿勢、知識及び構成、時間、仕上りのベースを理解して身に付ける。				
到達目標	美容師国家試験第2課題技術の基礎知識及び国家試験合格基準を目指す。				
評価基準	テスト50% 提出物20% 授業態度30%				
認定条件	出席が総時間数の3分2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	美容師免許				
関連科目	美容ベーシックB				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員			実務経験		
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オートウェーブセッティング	美容衛生（技術における衛生上の取り扱い） オールウェーブセッティング4H
2	オートウェーブセッティング	美容衛生（技術における衛生上の取り扱い） オールウェーブセッティング4H
3	オートウェーブセッティング	美容衛生（技術における衛生上の取り扱い） オールウェーブセッティング4H
4	オートウェーブセッティング	美容衛生（技術における衛生上の取り扱い） オールウェーブセッティング4H
5	オートウェーブセッティング (ワインディング)	美容衛生（技術における衛生上の取り扱い） オールウェーブセッティングまたワインディング4H
6	オートウェーブセッティング (ワインディング)	美容衛生（技術における衛生上の取り扱い） オールウェーブセッティングまたワインディング4H
7	オートウェーブセッティング (ワインディング)	美容衛生（技術における衛生上の取り扱い） オールウェーブセッティングまたワインディング4H

8	オートウェーブセッティング (ワインディング)	美容衛生（技術における衛生上の取り扱い） オールウェーブセッティングまたワインディング4H
9	オートウェーブセッティング (ワインディング)	美容衛生（技術における衛生上の取り扱い） オールウェーブセッティングまたワインディング4H
10	オートウェーブセッティング (ワインディング)	美容衛生（技術における衛生上の取り扱い） オールウェーブセッティングまたワインディング4H
11	オートウェーブセッティング (ワインディング)	美容衛生（技術における衛生上の取り扱い） オールウェーブセッティングまたワインディング4H
12	オートウェーブセッティング (ワインディング)	美容衛生（技術における衛生上の取り扱い） オールウェーブセッティングまたワインディング4H
13	総合授業	総合授業
14	総合授業	振り返り
15	総合授業	振り返り

シラバス

科目の基礎情報1

授業形態	講義	科目名	基礎理論Ⅰ		
必修選択	必修	(学則表記)	基礎理論Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容研究科	2	30
使用教材	美容技術理論1 美容技術理論2		出版社	公益財団法人 理容師美容師試験研修センター	

科目の基礎情報2

授業のねらい	美容師国家試験筆記試験課題の「美容技術理論」の正しい知識を身につける。				
到達目標	美容師国家試験筆記試験合格基準を目指す。				
評価基準	テスト30% 小テスト20% 提出物20% 授業態度30%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	美容師国家試験				
関連科目	美容知識Ⅰ・美容知識Ⅱ・美容知識Ⅲ・美容知識Ⅳ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	工藤 渉	実務経験		○	
実務内容	美容師歴26年 美容業経営者として19年勤務				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	<< 8章 エステティック >> 1. エステティック概論 2. 皮膚の生理と構造 3. カウンセリング	・エステティックの歴史、範囲、心得、注意点・皮膚の構造・カウンセリングの目的・実際、エステティックにおけるカウンセリング
2	4. 美容におけるマッサージ理論 5. フェイシャルケア技術 6. フェイシャル及びデコルテマッサージ 7. フェイシャルパック 8. ボディケア技術 9. ボディマッサージ	・基本手技・フェイシャルの効果、方法・デコルテ、フェイシャルの手順 マッサージにおける手の動かし方と操作ポイント
3	<< 9章 ネイル技術 >> 1. ネイル技術概論 2. ネイル技術の種類 3. 爪の構造と機能 4. 爪のカット形状 5. ネイル技術と公衆衛生 6. カウンセリング	・ネイルケア、アーティフィシヤルネイル、ネイルアート・爪の構造と機能・爪のカット形状・消毒方法の種類、器具の消毒手順、テーブルセッティングの一例・カウンセリング

4	7. ネイルケア 8. アーティフィシャルネイル 9. 手と足のマツサージ	・ネイルケアの道具、マニキュア・ペディキュア技術の手順・アーティフィシャルネイル技術の道具、プレパレーションの手順、ナチュラルネイルオーバーレイ技術の種類、ジェル技術の手順、シルクラップ技術の手順・グルー&ファイラー技術の手順、アーティフィシャルネイルの追加とオフ・ハンドマッサージのポイント・手順、フットマッサージのポイント・手順
5	≪ 10章 メイクアップ ≫ 1.メイクアップ概論 2.皮膚の生理と構造 3.フェイスプロポーション 4.色彩について 5.パーソナルカラー 6.用具の種類と消毒法	・メイクアップ概論（サロンワーク・スタジオワーク）・顔のプロポーション、顔の骨格と筋肉、顔の立体研究、メイクアップによる立体感、顔の凹凸に基づいたブロッキング・色の三属性、マルセル表色系による色の分類、角度配色・皮膚の生理と構造・メイクアップの道具
6	7.メイクアップ 8.プライダルメイクアップ 9.肌質別修正メイクアップ一覧表 10.まつ毛エクステンション	・クレンジング、トーンング、プロテクティング・ファンデーションの目的・選び方、塗り方と順序の一例、多色塗り、ハイライト、ローライト、カバーホワイト・ベースメイクのアクセントカラー・パウダリングスキンケアからベースメイクアップ、アイライン、アイシャドウ、カラーアイシャドウ、パウダーアイシャドウ、アイラッシュカール、マスカラ つけまつ毛のテクニック・眉の整え方、ドローイング、シェーディング ・リップの丸みのある描き方、鋭角的な描き方、ブラッシュオンメイクアップ ・まつ毛エクステンションにおける衛生及び保健、道具の一例・カウンセリング、注意事項、施術の一例
7	総まとめ	テストを実施する 8章～10章の国家試験出題傾向の高いものを重点的に出題
8	≪ 11章 日本髪 ≫ 1. 日本髪の由来 2. 日本髪の各部の名称 3. 日本髪の種類と特徴 4. 日本髪と調和	・日本髪の由来・日本髪の各部の名称・日本髪の種類と特徴・日本髪と調和
9	5. 日本髪の装飾品 6. 日本髪の結髪道具 7. 日本髪の結髪技術 8. 日本髪の手入れ 9. かつら	・日本髪の装飾品・日本髪の結髪道具・日本髪の結髪技術 ・日本髪の手入れ・かつら（かぶせ方、飾り方、付け方、簪の位置、外し方、持ち方、しまい方、手入れ）
10	≪ 12章 着付けの理論と技術 ≫ 1. 着付けの目的 2. 礼装 3. 着物と季節 4. 着物のいろいろ 5. 帯 6. 小物 7. 着物各部の名称 8. 着物のたたみ方	・着付けの目的・女子礼装、男子礼装、礼装生地、準礼装、心得・着物と季節・着物のいろいろ・帯・小物の種類・着物の各部の名称・着物のたたみ方
11	9. 着付けの一般的要領 10. 留袖着付け技術 11. 振袖着付け技術 12. 帯締め、帯揚げの結び方 13. 男子礼装羽織、袴着付け技術	・体型補正、長襦袢の着付け・着物の着付け、帯結び・帯締めの結び方の一例、帯揚げの結び方の一例、男子礼装羽織、袴着付け技術
12	14. 羽織のひもの結び方15. 女子袴着付け技術 16. 婚礼着付けの際の注意事項17. 和装花嫁 18. 洋装花嫁(ウエディングドレスの知識)	・羽織のひもの結び方・女子袴着付け技術・美容師自身の身だしなみ、不測の事態に備える、緊張をほぐすための細かい配慮、花嫁の動作に注意する、機敏な動作・和装花嫁・洋装花嫁
13	まとめ	まとめを実施する 11章～12章の国家試験出題傾向の高いものを重点的に出題
14	解説	まとめの振り返り・解説
15	美容技術理論Ⅱ 総まとめ	美容技術理論Ⅱ 総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報1

授業形態	講義	科目名	基礎理論Ⅱ		
必修選択	必修	(学則表記)	基礎理論Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容研究科	2	30
使用教材	美容技術理論1 美容技術理論2		出版社	公益財団法人 理容師美容師試験研修センター	

科目の基礎情報2

授業のねらい	美容師国家試験筆記試験課題の「美容技術理論」の正しい知識を身につける。				
到達目標	美容師国家試験筆記試験合格基準を目指す。				
評価基準	テスト30% 小テスト20% 提出物20% 授業態度30%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	美容師国家試験				
関連科目	美容知識Ⅰ・美容知識Ⅱ・美容知識Ⅲ・美容知識Ⅳ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	工藤 渉	実務経験			
実務内容	美容師歴26年、美容業経営者として19年勤務				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	美容技術理論Ⅰ 序章・1章	美容技術理論を学ぶにあたって・美容道具 重点項目振り返り
2	美容技術理論Ⅰ 2章・3章	シャンプー・ヘアデザイン 重点項目振り返り
3	美容技術理論Ⅰ 4章・5章	ヘアカット・パーマ・ウェーブ 重点項目振り返り
4	美容技術理論Ⅰ 6章・7章	ヘアセット・ヘアカラーリング 重点項目振り返り
5	美容技術理論Ⅰ 総まとめ	美容技術理論Ⅰ まとめを行う
6	対策	美容技術理論Ⅰ・Ⅱ 重点項目復習
7	まとめ	まとめを実施する 美容技術理論Ⅰ・Ⅱ の国家試験出題傾向の高いものを重点的に出題
8	まとめ	美容師国家試験過去問の演習と解説

9	まとめ	美容師国家試験過去問の演習と解説
10	まとめ	美容師国家試験過去問の演習と解説
11	まとめ	美容技術理論Ⅰ・Ⅱ 重点項目復習
12	まとめ	美容師国家試験過去問の演習と解説
13	まとめ	美容師国家試験過去問の演習と解説
14	まとめ	美容師国家試験過去問の演習と解説
15	総まとめ	総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報1

授業形態	講義	科目名	美容知識Ⅰ - Ⅰ		
必修選択	選択	(学則表記)	美容知識Ⅰ - Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容研究科	2	30
使用教材	衛生管理1 衛生管理2		出版社	公益財団法人 理容師美容師試験研修センター	

科目の基礎情報2

授業のねらい	美容師国家試験筆記試験課題の「衛生管理」の正しい知識を身につける。				
到達目標	美容師国家試験筆記試験合格基準を目指す。				
評価基準	テスト30% 小テスト20% 提出物20% 授業態度30%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	美容師国家試験				
関連科目	美容知識Ⅰ・美容知識Ⅱ・美容知識Ⅲ・美容知識Ⅳ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	遠藤翔太	実務経験	○		
実務内容	薬剤師として製薬メーカーにて医療品の開発に携わった後、調剤薬局に10年以上勤務。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション 1編 公衆衛生 1章 公衆衛生の概要	美容師免許を所得する上での必要性、取得までの流れ 筆記試験の問題形式・問題数・問題傾向の説明 「公衆衛生の意義と課題」「公衆衛生発展の歴史」「理容師・美容師と公衆衛生」「保健所と理容業・美容業」の復習
2	1編 公衆衛生 2章 保健1	「母子保健」「成人・高齢者保健」1の復習
3	1編 公衆衛生 2章 保健2	「成人・高齢者保健」2「精神保健」の復習
4	1編のまとめ 2編 環境衛生 1章 環境衛生1	単元テストを実施→振り返り・解説 「環境衛生の概要」「空気環境」の復習
5	2編 環境衛生 1章 環境衛生2	「衣服・住居の衛生」「上下水道と廃棄物」の復習
6	2編 環境衛生 2章 環境衛生3	「衛生害虫とネズミ」「環境保全」の復習

7	2編のまとめ 3編 感染症 1章 感染症の総論1	単元テストを実施→振り返り・解説 「人と感染症」の復習
8	3編 感染症 1章 感染症の総論2	「病原微生物」の復習
9	感染症の総論1のまとめ 3編 感染症 1章 感染症の総論3	感染症の総論1 単元テストを実施→振り返り・解説 「感染症の予防」の復習
10	感染症の総論2のまとめ 3編 感染症 2章 感染症の各論1	感染症の総論2 単元テストを実施→振り返り・解説 「空気・飛沫を介して感染する感染症」の復習
11	3編 感染症 2章 感染症の各論2	「飲食物を介して感染する感染症」の復習 「血液等を介して感染する感染症」の復習
12	3編 感染症 2章 感染症の各論3	「動物・節足動物を介して感染する感染症」の復習 「具体的な対策の例」の復習
13	感染症の各論のまとめ 3編の総まとめ	感染症の各論 単元テストを実施→振り返り・解説 3編の総まとめを実施する
14	テスト	テストを実施する
15	総合授業	テストを返却→振り返り・解説

シラバス

科目の基礎情報1

授業形態	講義	科目名	美容知識Ⅰ - Ⅱ		
必修選択	選択	(学則表記)	美容知識Ⅰ - Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容研究科	2	30
使用教材	衛生管理1 衛生管理2		出版社	公益財団法人 理容師美容師試験研修センター	

科目の基礎情報2

授業のねらい	美容師国家試験筆記試験課題の「衛生管理」の正しい知識を身につける。				
到達目標	美容師国家試験筆記試験合格基準を目指す。				
評価基準	テスト30% 小テスト20% 提出物20% 授業態度30%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	美容師国家試験				
関連科目	美容知識Ⅰ・美容知識Ⅱ・美容知識Ⅲ・美容知識Ⅳ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員				実務経験	
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	第4編 衛生管理技術 1章 消毒法総論1	「消毒法とは」「消毒の意義」の復習 「理容・美容の業務と消毒との関係」の復習
2	第4編 衛生管理技術 1章 消毒法総論2 消毒法総論まとめ	「消毒法と適用上の注意」の復習 単元テストを実施→振り返り・解説
3	第4編 衛生管理技術 2章 消毒法各論1	「理学的消毒法・化学的消毒法」の復習 「すぐれた消毒法と実施上の注意」の復習
4	第4編 衛生管理技術 2章 消毒法各論2 消毒法各論まとめ	「理学的消毒法・化学的消毒法の消毒方法」の復習 「すぐれた消毒法と実施上の注意」の復習 単元テストを実施→振り返り・解説
5	第4編 衛生管理技術 3章 消毒法実習1	「各種消毒薬」（消毒液の概要、器具の使い方、常備しておく消毒液と希釈液の濃度、消毒薬希釈法）の復習

6	第4編 衛生管理技術 3章 消毒法実習2	「理容所・美容所の消毒の実際」1（理容所・美容所における消毒の原則、消毒設備、器具類の消毒法、理容師・美容師の手指の消毒） 「理美容所の清潔法の実際」2（清潔保持と清掃、洗剤による清浄法、洗い場の構造と清潔保持、清掃、刈り取った毛の処理、ふた付き汚物箱などの消毒、ハエやカなどの駆除）
7	消毒法実習まとめ 第5編 衛生管理の実践例 1章 衛生管理要領1	単元テストを実施→振り返り・解説 第1 目的～第4 衛生的取り扱い等1
8	第5編 衛生管理の実践例 1章衛生管理要領2	第1 目的～第4 衛生的取り扱い等2 第5 消毒～第6 自主的管理体制
9	衛生管理の実践例まとめ 4編の総まとめ	単元テストを実施→振り返り・解説 まとめを実施する。振り返り・解説
10	テスト	テストを実施する
11	国試過去問演習1	テストを返却→振り返り・解説 美容師国家試験過去問の演習と解説
12	国試過去問演習2	美容師国家試験過去問の演習と解説
13	国試過去問演習3	美容師国家試験過去問の演習と解説
14	国試過去問演習4	美容師国家試験過去問の演習と解説
15	総合授業	総まとめを行う

シラバス				
科目の基礎情報1				
授業形態	講義	科目名	美容知識Ⅱ - Ⅰ	
必修選択	選択	(学則表記)	美容知識Ⅱ - Ⅰ	
開講			単位数	時間数
年次	1年	学科	美容研究科	2 30
使用教材	保健1 保健2		出版社	公益財団法人 理容師美容師試験研修センター
科目の基礎情報2				
授業のねらい	美容師国家試験筆記試験課題のうち、保健領域（2編皮膚科学）に関する正しい知識を身につける。			
到達目標	美容師国家試験筆記試験合格基準に到達する知識力の修得を目指す。			
評価基準	テスト30% 小テスト20% 提出物20% 授業態度30%			
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者			
関連資格	美容師国家試験			
関連科目	基礎理論・美容知識Ⅰ・美容知識Ⅲ・美容知識Ⅳ			
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。			
担当教員	入江クミ	実務経験		○
実務内容	看護師免許を取得後、神奈川県内、東京都の病院で10年勤務			

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開		
回数	単元	内容
1	人体の構造および機能の復習 (第1章～2章)	頭部・顔部・頸部の体表解剖学、骨格系の演習（国家試験過去問題）と解説
2	人体の構造および機能の復習 (第3章～4章)	筋系、神経系の演習（国家試験過去問題）と解説
3	人体の構造および機能の復習 (第5章～7章)	感覚器、血液、循環器系の演習（国家試験過去問題）と解説
4	人体の構造および機能の復習 (第8章～9章)	呼吸器系、消化器系の演習（国家試験過去問題）と解説
5	皮膚科学（第1章）	皮膚の構造
6	皮膚科学（第2章）	皮膚付属機関の構造 1項 毛
7	皮膚科学（第2章～3章）	皮膚付属器官の構造 2項脂腺 3項汗腺 4項爪皮膚の循環器系と神経系
8	皮膚科学（第4章）	皮膚と付属器官の生理機能
9	総まとめ	テストを実施する

10	皮膚科学（第5章）	皮膚と皮膚付属器官の保健
11	皮膚科学（第6章）	皮膚と皮膚付属器官の疾患 1項 皮膚の異常と病態 2項皮膚炎・湿疹・3項 蕁麻疹・4項 薬疹 5項 口唇の疾患
12	皮膚科学（第6章）	皮膚と皮膚付属器官の疾患 6項温熱・寒冷による皮膚障害 7項角化異常による皮膚疾患 8項 色素異常による皮膚疾患 9項 血管腫 10項 脂腺母斑 11項 下肢静脈瘤 12項 分泌異常による皮膚疾患
13	皮膚科学（第6章）	皮膚と皮膚付属器官の疾患 13項 化膿菌による皮膚疾患 14項ウイルスによる皮膚疾患 15項 真菌による皮膚疾患 16項 衛生害虫による皮膚疾患 17項 感染症の皮膚予防 18項 毛と爪の疾患 19項 皮膚の腫瘍
14	総まとめ	テストを実施する
15	解説 皮膚科学（第6章）	振り返り・テスト解説

シラバス				
科目の基礎情報1				
授業形態	講義	科目名	美容知識Ⅱ - Ⅱ	
必修選択	選択	(学則表記)	美容知識Ⅱ - Ⅱ	
開講			単位数	時間数
年次	1年	学科	美容研究科	2 30
使用教材	保健1 保健2		出版社	公益財団法人 理容師美容師試験研修センター
科目の基礎情報2				
授業のねらい	美容師国家試験筆記試験課題のうち、保健領域（2編皮膚科学）に関する正しい知識を身につける。			
到達目標	美容師国家試験筆記試験合格基準に到達する知識力の修得を目指す。			
評価基準	テスト30% 小テスト20% 提出物20% 授業態度30%			
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者			
関連資格	美容師国家試験			
関連科目	基礎理論・美容知識Ⅰ・美容知識Ⅲ・美容知識Ⅳ			
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。			
担当教員			実務経験	
実務内容				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開		
回数	単元	内容
1	皮膚科学の復習（第1～2章）	皮膚の構造と皮膚の付属器官の構造の演習と解説
2	皮膚科学の復習（第2章～4章）	皮膚の付属器官の構造と循環器系と神経系の演習と解説
3	皮膚科学の復習（第5章）	皮膚と付属器官の保健の演習と解説
4	皮膚科学の復習（第6章）	皮膚と付属器官の疾患の演習と解説
5	国家試験対策	国家試験過去問、全国・校内模試の見直し、グループワーク等による復習
6	国家試験対策	国家試験過去問、全国・校内模試の見直し、グループワーク等による復習
7	国家試験対策	国家試験過去問、全国・校内模試の見直し、グループワーク等による復習
8	国家試験対策	国家試験過去問、全国・校内模試の見直し、グループワーク等による復習
9	国家試験対策	国家試験過去問、全国・校内模試の見直し、グループワーク等による復習

10	国家試験対策	国家試験過去問、全国・校内模試の見直し、グループワーク等による復習
11	国家試験対策	国家試験過去問、全国・校内模試の見直し、グループワーク等による復習
12	国家試験対策	国家試験過去問、全国・校内模試の見直し、グループワーク等による復習
13	国家試験対策	国家試験過去問、全国・校内模試の見直し、グループワーク等による復習
14	国家試験対策	国家試験過去問、全国・校内模試の見直し、グループワーク等による復習
15	国家試験対策	国家試験前重要ポイント復習

シラバス

科目の基礎情報1

授業形態	講義	科目名	美容知識Ⅲ - Ⅰ		
必修選択	選択	(学則表記)	美容知識Ⅲ - Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容研究科	2	30
使用教材	香粧品化学1 香粧品化学2		出版社	公益財団法人 理容師美容師試験研修センター	

科目の基礎情報2

授業のねらい	美容器具や香粧品等に関する化学的知識を通し、美容を適切に行う能力と態度を育てる。 「美容技術理論」、及び「美容実習」と関連させながら、実際の知識の習得する。				
到達目標	美容の香粧品化学・美容機器・香粧品の適正な取扱いができるように、化学の基本原理や応用ができる。				
評価基準	テスト：50% 小テスト：30% 授業態度：20%				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	美容師国家資格				
関連科目	基礎理論・美容知識Ⅰ・美容知識Ⅱ・美容知識Ⅳ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	松野佳代子	実務経験		○	
実務内容	メーカーに研究者として7年勤務				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	第1編 第1章：香粧品総論 第2章：香粧品を使用する際に気を付けること	香粧品の社会的意義を踏まえ、その有効性と安全性を確保するための国による規制やメーカーの対応などから、使用する際の注意、その他
2	第3章：香粧品の成り立ち 「水と親水性溶媒」	溶質と溶媒、有機・無機化合物、アルコールの種類と特徴のまとめ
3	第3章：香粧品の成り立ち 「油性原料」「界面活性剤」	油性原料（油脂、ロウ類、炭化水素、高級脂肪酸、高級アルコール、シリコーン油など） 界面活性剤の種類と性質
4	第3章：香粧品の成り立ち 「高分子化合物」「色材」	高分子化合物（天然・半合成・合成） 色材（無機顔料・タール色素など）
5	まとめ総合および中間試験	1～4回までの総復習および中間試験
6	第3章：香粧品の成り立ち「天然色素」「香料」「配合原料」	天然色素、香料、配合原料（防腐剤・紫外線吸収剤・酸化防止剤・収れん剤など）合成樹脂など
7	第2編 第1章：スキンケア製品1	クレンジング用香粧品・コンディショニング用香粧品（クリーム・乳液を含む）とエモリエント剤の復習
8	第2編 第1章：スキンケア製品2	トリートメント用香粧品・スキンケア製品・美白用香粧品・ニキビ用香粧品・打粉類・パック剤

9	第2編 第2章：メイクアップ製品	ベースメイクアップ製品、アイメイクアップ製品、まつ毛ケア製品、ネイルメイクアップ製品
10	第2編 第3章：ヘアケア、ヘアメイクアップ及びスカルプケア製品1	ヘアクレンジング用化粧品、ヘアコンディショニング用化粧品、ヘアスタイリング料・総復習
11	第2編 第3章：ヘアケア、ヘアメイクアップ及びスカルプケア製品2	パーマ剤（パーマの原理、分類など）
12	第2編 第3章：ヘアケア、ヘアメイクアップ及びスカルプケア製品3	ヘアカラー製品・スカルプケア製品
13	まとめ総合および期末試験	6回から12回までの総復習および期末試験
14	試験解説および総復習	期末試験の解説および総復習
15	前期総まとめ	前期総まとめ

シラバス

科目の基礎情報1

授業形態	講義	科目名	美容知識Ⅲ - Ⅱ		
必修選択	選択	(学則表記)	美容知識Ⅲ - Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容研究科	2	30
使用教材	化粧品化学1 化粧品化学2		出版社	公益財団法人 理容師美容師試験研修センター	

科目の基礎情報2

授業のねらい	美容器具や化粧品等に関する化学的知識を通し、美容を適切に行う能力と態度を育てる。 「美容技術理論」、及び「美容実習」と関連させながら、実的な知識の習得する。				
到達目標	美容の化粧品化学・美容機器・化粧品の適正な取扱いができるように、化学の基本原理や応用ができる。				
評価基準	テスト：50% 小テスト：30% 授業態度：20%				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	美容師国家資格				
関連科目	基礎理論・美容知識Ⅰ・美容知識Ⅱ・美容知識Ⅳ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員			実務経験		
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	前期内容確認	前期で学習した内容を総復習しながら、不十分な範囲などを補足する。
2	化学範囲補充	教科書化学範囲（関連事項）について補足授業
3	化粧品化学総合1	化粧品化学の重要項目の復習と演習および解説
4	化粧品化学総合2	化粧品化学の重要項目の復習と演習および解説
5	化粧品化学総合3	化粧品化学の重要項目の復習と演習および解説
6	国家試験対策	国家試験過去問の演習と解説
7	国家試験対策	国家試験過去問の演習と解説
8	国家試験対策	国家試験過去問の演習と解説

9	まとめ総合および期末試験	期末試験（全範囲）
10	試験解説および総復習	期末試験の解説および総復習
11	国家試験対策	国家試験対応問題の演習と解説
12	国家試験対策	国家試験対応問題の演習と解説
13	国家試験対策	国家試験対応問題の演習と解説
14	国家試験対策	国家試験対応問題の演習と解説
15	国家試験対策	総まとめ

シラバス				
科目の基礎情報1				
授業形態	講義	科目名	美容知識Ⅳ - Ⅰ	
必修選択	選択	(学則表記)	美容知識Ⅳ - Ⅰ	
開講			単位数	時間数
年次	1年	学科	美容研究科	1 15
使用教材	関係法規・制度1 関係法規・制度2 (美容)		出版社	公益財団法人 理容師美容師試験研修センター
科目の基礎情報2				
授業のねらい	美容の業に対する美容師法による規制と、行政による指導監督制度、およびその他の美容の業の関連法規に関する知識の習得を図る。			
到達目標	美容業に関する関係法規・諸制度のみならず、その前提となる法制度や衛生行政の知識を獲得し、美容師国家試験筆記試験「関係法規」の合格基準を満たすことができる			
評価基準	テスト (小テスト等含む) : 75% 授業態度 (提出物等含む) : 25%			
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者			
関連資格	美容師国家試験			
関連科目	基礎理論・美容知識Ⅰ・美容知識Ⅱ・美容知識Ⅲ			
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。			
担当教員	野澤馨	実務経験		○
実務内容	某大学にて10年間、民法の講師を行う。現在は都内で要配慮児童・生徒の学習支援、生活支援を行う			

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開		
回数	単元	内容
1	イントロダクション 第1章・第2章の復習	国家試験における関係法規の出題数や傾向の説明成績・評価の説明 第1章・第2章の復習
2	第3章の復習	第3章1節～3節「美容師になるまで」の復習
3	第3章の復習	第3章3節「美容師に求められる義務」～「管理美容師」の復習
4	第3章 理容師法・美容師法 第4節	美容所の開設に必要な届出・検査
5	第3章 理容師法・美容師法 第4節	開設者が求められる義務および美容所以外での業務
6	第3章 理容師法・美容師法 第5節	立入検査と環境衛生監視員
7	まとめ	まとめを行う
8	解説・まとめ	振り返り・解説
9	第3章 理容師法・美容師法 第6節	違反者に対する行政処分

10	第3章 理容師法・美容師法 第7節	違反者に対する罰則
11	第4章 関連法規	美容業の衛生に関する関連法規
12	第4章 関連法規	美容業の振興に関する関連法規
13	第4章 関連法規	美容業の雇用、消費者保護に関する関連法規
14	まとめ	まとめを行う
15	解説・総まとめ	振り返り・解説

シラバス				
科目の基礎情報1				
授業形態	講義	科目名	美容知識Ⅳ - Ⅱ	
必修選択	選択	(学則表記)	美容知識Ⅳ - Ⅱ	
開講			単位数	時間数
年次	1年	学科	美容研究科	1 15
使用教材	関係法規・制度1 関係法規・制度2 (美容)		出版社	公益財団法人 理容師美容師試験研修センター
科目の基礎情報2				
授業のねらい	美容の業に対する美容師法による規制と、行政による指導監督制度、およびその他の美容の業の関連法規に関する知識の習得を図る。			
到達目標	美容業に関する関係法規・諸制度のみならず、その前提となる法制度や衛生行政の知識を獲得し、美容師国家試験筆記試験「関係法規」の合格基準を満たすことができる			
評価基準	テスト (小テスト等含む) : 75% 授業態度 (提出物等含む) : 25%			
認定条件	・ 出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・ 成績評価が2以上の者			
関連資格	美容師国家試験			
関連科目	基礎理論・美容知識Ⅰ・美容知識Ⅱ・美容知識Ⅲ			
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。			
担当教員		実務経験		
実務内容				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開		
回数	単元	内容
1	第1章 第2章の復習	ワークブックを用いて問題演習
2	第3章の復習(1)	ワークブックを用いて問題演習
3	第3章の復習(2)	ワークブックを用いて問題演習
4	第3章の復習(3)・第4章の復習(1)	ワークブックや国家試験を用いて問題演習
5	第4章の復習(2)	ワークブックや国家試験を用いて問題演習
6	まとめ	まとめを行う
7	解説・まとめ	振り返り・解説
8	総復習(1)	国家試験過去問演習等
9	総復習(2)	国家試験過去問演習等

10	総復習(3)	国家試験過去問演習等
11	総復習(4)	国家試験過去問演習等
12	総復習(5)	国家試験過去問演習等
13	まとめ	まとめを行う
14	解説・まとめ	振り返り・解説
15	総まとめ	総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報1

授業形態	演習	科目名	コンテストヘア I		
必修選択	選択	(学則表記)	コンテストヘア I		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容研究科	1	30
使用教材	ウィッグ クランプ ダックカール ブラシ類 アイロン ホットカーラー 美容技術理論1, 2		出版社	なし	

科目の基礎情報2

授業のねらい	ヘア&メイクのトータルコーディネートを学び、個々の創造力を豊かにする				
到達目標	各技術の基礎定着と自身の発想力及び美容技術の根本的な楽しさを学ぶ				
評価基準	実技試験50%提出物20%授業態度 30%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格					
関連科目	美容総合テクニック				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	荻野明美	実務経験	○		
実務内容	美容師としてサロンに勤務後、ヘアメイクアップアーティストに。 CMや広告、雑誌、TV、CDジャケット、舞台、ファッションショー、イベント、ブライダルなど様々な現場で活動				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	自己紹介、授業の目的、評価基準、授業ルールなど
2	ヘアアレンジ	基礎テクニック
3	ヘアアレンジ	基礎テクニック、アレンジ
4	ヘアアレンジ	アレンジ、テスト練習
5	テスト1	ヘアアレンジテスト
6	ヘアアイロン	ヘアアイロンを使用したスタイル作り
7	ヘアアイロン	ヘアアイロンを使用したスタイル作り
8	スタイル作り1	トレンドから取り入れたスタイル作り

9	スタイル作り2	トレンドから取り入れたスタイル作り
10	スタイル作り3	トレンドから取り入れたスタイル作り
11	テスト2	ヘアアレンジテストテスト
12	撮影について	座学、プランシート作成
13	撮影	作品制作（相モデル）練習
14	撮影1	作品制作・撮影
15	撮影2	作品制作・撮影

シラバス

科目の基礎情報1

授業形態	演習	科目名	コンテストヘアⅡ		
必修選択	選択	(学則表記)	コンテストヘアⅡ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容研究科	1	30
使用教材	ウィッグ クランプ ダックカール ブラシ類 アイロン ホットカーラー 美容技術理論1, 2		出版社	なし	

科目の基礎情報2

授業のねらい	ヘア&メイクのトータルコーディネートを学び、個々の創造力を豊かにする				
到達目標	各技術の基礎定着と自身の発想力及び美容技術の根本的な楽しさを学ぶ				
評価基準	実技試験30% 筆記試験30% 提出物20% 授業態度20%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格					
関連科目	美容総合テクニック				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員				実務経験	
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	イントロダクション	スケジュール確認、カット知識、ワンレングス
2	カット	ショートレイヤー
3	カット	グラデーションボブ
4	カット	ラウンドレイヤー
5	パーマ	パーマ理論、サロンスタイルパーマ
6	パーマ	スパイラルパーマ、ツイストパーマ
7	パーマ	ピンパーマ、豆ロッド
8	撮影	相モデルで撮影会

9	撮影	相モデルで撮影会
10	ウィッグ作成	ウィッグ作成 (カット・カラー・パーマ)
11	ウィッグ作成	ウィッグ作成 (カット・カラー・パーマ)
12	テスト練習	カット練習、カット座学・パーマ座学振り返り
13	テスト	カット実技テスト、カット・パーマ座学テスト
14	卒業制作	ウィッグ作成 (カット・カラー・パーマ)
15	卒業制作	ウィッグ作成 (カット・カラー・パーマ)

シラバス

科目の基礎情報1

授業形態	演習	科目名	コンテストメイクⅠ		
必修選択	選択	(学則表記)	コンテストメイクⅠ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容研究科	1	30
使用教材	メイク道具一式		出版社	三幸学園	

科目の基礎情報2

授業のねらい	コンテストを意識し、提案力を高め、メイクアップ技術を現場を意識して実践できるようにする。				
到達目標	メイクの基礎知識・基礎技術を理解し、テーマに合わせたフルメイクができるようにする。				
評価基準	実技試験50% 提出物30% 授業態度20%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格					
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	小林満里子他1名	実務経験	○		
実務内容	メイクアップアーティストとしてビューティーやファッションの広告、雑誌、カタログの撮影				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション フルメイク1	授業の目的目標、評価基準、授業ルール、教材確認 ナチュラルメイク（導入）
2	フルメイク2	モデルに合わせたナチュラルメイク（デッサンシート作成・実践）
3	フルメイク3 ブライダルメイク1	モデルに合わせたナチュラルメイク（実践） WD用ブライダルメイク（導入）
4	ブライダルメイク2	WD用ブライダルメイク（デッサンシート作成・実践）
5	ブライダルメイク3 年代別メイク1	WD用ブライダルメイク（実践・小テスト） 60年代メイク（導入）
6	年代別メイク2	60年代メイク（デッサンシート作成・実践）
7	年代別メイク3 スチールメイク1	60年代メイク（実践） フォトコンで行うメイク制作（導入・デッサンシート作成）
8	スチールメイク2	フォトコンで行うメイク制作（実践）

9	スチールメイク3	フォトコンで行うメイク制作（実践）
10	スチールメイク4	フォトコンで行うメイク制作（テスト）
11	舞台メイク1	舞台の男役メイク（導入・デッサンシート作成・実践）
12	舞台メイク2	舞台の男役メイク（実践）
13	舞台メイク3	舞台の女役メイク（導入・デッサンシート作成・実践）
14	舞台メイク4	舞台の女役メイク（実践）
15	総合実習	総まとめ

シラバス

科目の基礎情報1

授業形態	演習	科目名	コンテストメイクⅡ		
必修選択	選択	(学則表記)	コンテストメイクⅡ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容研究科	1	30
使用教材	メイク道具一式		出版社	三幸学園	

科目の基礎情報2

授業のねらい	コンテストを意識し、提案力を高め、メイクアップ技術を現場を意識して実践できるようにする。				
到達目標	メイクの基礎知識・基礎技術を理解し、テーマに合わせたフルメイクができるようにする。				
評価基準	実技試験50% 提出物30% 授業態度20%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格					
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員				実務経験	
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	白塗り	説明・デモ・デッサンシート作成・実践
2	白塗り1	相モデル実習1
3	白塗り2	相モデル実習2
4	模写メイク（傷メイク含）	説明・デモ・デッサンシート作成・実践
5	模写メイク（傷メイク含）	相モデル実習2
6	アニマルメイク	説明・デッサンシート作成・実践
7	アニマルメイク	相モデル実習
8	トレンドメイク	説明・デモデッサンシート作成

9	トレンドメイク	相モデル実習
10	テスト	相モデル実習
11	テスト	相モデル実習
12	作品制作	グループ分け・デッサンシート作成 *3人1グループとなり担当制で施術 *ヘアメイク同時進行で60分仕上げ
13	作品制作	
14	作品制作	
15	総合授業	総まとめ

シラバス

科目の基礎情報1

授業形態	演習	科目名	美容総合テクニックⅠ		
必修選択	選択	(学則表記)	美容総合テクニックⅠ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容研究科	1	30
使用教材	ウィッグ クランプ ダックカール ブラシ類 アイロン シザー コーム 美容技術理論1, 2		出版社	日本理容美容教育センター	

科目の基礎情報2

授業のねらい	美容師としての基礎知識、基礎技術の強化				
到達目標	各技術の基礎定着と自身の発想力及び美容技術の根本的な楽しさを学ぶ				
評価基準	実技試験30% 筆記試験30% 提出物20% 授業態度20%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格					
関連科目	コンテストヘア				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員				実務経験	
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	イントロダクション、カラー塗布	コンテストヘアで学ぶ内容、ルール、トレーニングクリーム塗布
2	ブリーチ塗布	ブリーチ知識、半頭ブリーチ2回
3	ブリーチ塗布	ウィーピング、スライシング
4	ヘアマニキュア	酸性カラーの知識、塗布方法、小テスト
5	ヘアアレンジ	ヘアアレンジ知識、各編み込み手技（表・裏・フィッシュボーン）
6	フルールヘア、フィガー8	手技、作品作り
7	ウォーターフォール、かご編み	手技、作品作り
8	サイドシャンプー	シャンプー知識、相モデルでシャンプー&ドライ スタイリング

9	サイドシャンプー	相モデルでシャンプー&ドライ スタイリング
10	サイドシャンプー	相モデルでシャンプー&ドライ スタイリング
11	サイドシャンプー	相モデルでシャンプー&ドライ スタイリング
12	テスト練習	シャンプー知識振り返り、トレーニングクリームで塗布練習
13	テスト	シャンプー座学テスト、カラー塗布実技テスト
14	撮影	撮影知識、構成シート作成
15	撮影	撮影会（ヘアメイク&撮影、加工、提出）

シラバス

科目の基礎情報1

授業形態	演習	科目名	美容総合テクニックⅡ		
必修選択	選択	(学則表記)	美容総合テクニックⅡ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容研究科	1	30
使用教材	ウィッグ クランプ ダックカール ブラシ類 アイロン シザー コーム 美容技術理論1, 2		出版社	日本理容美容教育センター	

科目の基礎情報2

授業のねらい	美容師としての基礎知識、基礎技術の強化				
到達目標	各技術の基礎定着と自身の発想力及び美容技術の根本的な楽しさを学ぶ				
評価基準	実技試験30% 筆記試験30% 提出物20% 授業態度20%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格					
関連科目	コンテストヘア				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員				実務経験	
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	イントロダクション	スケジュール確認、カット知識、ワンレングス
2	カット	ショートレイヤー
3	カット	グラデーションボブ
4	カット	ラウンドレイヤー
5	パーマ	パーマ理論、サロンスタイルパーマ
6	パーマ	スパイラルパーマ、ツイストパーマ
7	パーマ	ピンパーマ、豆ロッド
8	撮影	相モデルで撮影会

9	撮影	相モデルで撮影会
10	ウィッグ作成	ウィッグ作成 (カット・カラー・パーマ)
11	ウィッグ作成	ウィッグ作成 (カット・カラー・パーマ)
12	テスト練習	カット練習、カット座学・パーマ座学振り返り
13	テスト	カット実技テスト、カット・パーマ座学テスト
14	卒業制作	ウィッグ作成 (カット・カラー・パーマ)
15	卒業制作	ウィッグ作成 (カット・カラー・パーマ)

シラバス

科目の基礎情報1

授業形態	演習	科目名	プロアクティブI		
必修選択	選択	(学則表記)	プロアクティブI		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容研究科	2	60
使用教材	ヘアアレンジウィッグ シャンプー道具 まつ毛エクステンション教材 美容技術理論1、2		出版社	日本理容美容教育センター	

科目の基礎情報2

授業のねらい	積極的に先を見越した行動を起こすことができる				
到達目標	協力して美容業務全般に通じる力をつける				
評価基準	小テスト20%・テスト20%・検定30%・授業態度20%・提出物10%				
認定条件	出席が総時間数の3分2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	美容師免許				
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	森川薫奈	実務経験		○	
実務内容	美容室に4年勤務後、アイラッシュ講師免許取得。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	自己紹介・プロアクティブについて・ルール・流れ・用具配布・ワゴンセッティング
2	まつ毛エクステンション概要 用具・材料	座学/教科書、プリント 実技/道具ラベル貼り・ワゴンセッティング・かき分け
3	まつ毛エクステンション概要 用剤	座学/教科書、プリント 実技/ワゴンセッティング・かき分け・装着
4	衛生管理	座学/教科書、プリント 実技/ワゴンセッティング・かき分け・装着
5	衛生管理	座学/教科書、プリント 実技/ワゴンセッティング・かき分け・装着
6	保健康膚の構造・アレルギー	座学/教科書、プリント 実技/シートタイプ装着
7	保健康眼の構造	座学/教科書、プリント 実技/テーピング
8	保健康眼の病気	座学/教科書、プリント 実技/テーピング

9	まつ毛の構造	座学/教科書、プリント 実技/装着、リムービング練習
10	カウンセリング	座学/教科書、プリント 実技/装着、リムービング練習
11	確認テスト	座学/全範囲 実技/ワゴンセッティング・装着50本
12	デザイン カラー	ナチュラル・キュート・グラマラス・セクシーなど 長さとかールを選んでデザインする
13	デザイン カラー	ナチュラル・キュート・グラマラス・セクシーなど 長さとかールを選んでデザインする
14	デザイン カラーテスト	カラーエクステを使用してデザインする
15	シャンプー	シャンプーの基礎・掃除の仕方

シラバス

科目の基礎情報1

授業形態	演習	科目名	プロアクティブⅡ		
必修選択	選択	(学則表記)	プロアクティブⅡ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容研究科	1	45
使用教材	ヘアアレンジウィッグ シャンプー道具 まつ毛エクステンション教材 美容技術理論1、2		出版社	日本理容美容教育センター	

科目の基礎情報2

授業のねらい	積極的に先を見越した行動を起こすことができる				
到達目標	協力して美容業務全般に通じる力をつける				
評価基準	小テスト20%・テスト20%・検定30%・授業態度20%・提出物10%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格	美容師免許				
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員			実務経験		
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	シャンプー・ヘアアレンジ	シャンプー後、相モデルでヘアアレンジ
2	シャンプー・ヘアアレンジ	シャンプー後、相モデルでヘアアレンジ
3	シャンプー・ヘアアレンジ	シャンプー後、相モデルでヘアアレンジ
4	国試技術理論対策	国家試験の技術理論の復習
5	アイラッシュ検定対策	検定対策模試
6	アイラッシュ検定対策	検定対策模試
7	アイラッシュ検定対策	検定対策模試
8	アイラッシュ検定対策	検定対策模試

9	アイラッシュ検定対策	検定対策模試
10	検定振り返りデザイン見本作成	カウンセリングに使用するデザイン見本を作成
11	カウンセリングによる 課題解決授業	クレームや考えうるトラブルを想定し、ディスカッションする 出てきた課題に対して対応策を協議、共有する
12	カウンセリングシート作成	予約時、施術前、施術後、ホームケアに関するカウンセリングシート等を作成する
13	カウンセリング動画学習	これまでの学習を通して、実際のサロンと同じようにカウンセリングをする様子を互いに撮影し、フィードバックする
14	国試技術理論対策	国家試験の技術理論の復習
15	国試技術理論対策	国家試験の技術理論の復習

シラバス

科目の基礎情報1

授業形態	講義	科目名	就職対策Ⅰ		
必修選択	選択	(学則表記)	就職対策Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容研究科	1	15
使用教材	リクルートガイドブック		出版社	なし	

科目の基礎情報2

授業のねらい	社会人としての自覚を持たせ、社会のマナーやルールを学び内定合格に繋げる				
到達目標	社会のマナーやルール、一般常識を理解し自分にあった就職先を見つける				
評価基準	テスト40%、授業態度30%、提出物30%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格					
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	森川薫奈	実務経験		○	
実務内容	美容室勤務4年				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	就職活動に関して	ルールの再確認、特別活動届の書き方を学ぶ
2	お礼状の書き方	サロン訪問や内定先へのお礼状の書き方を学ぶ。
3	電話、メール指導	就職先への電話のかけ方、メールの送り方について再度学ぶ。
4	面接指導	面接の入室、退室のルール確認。グループごとに行う。
5	履歴書指導	志望動機や自己PRをグループごとに練習。
6		
7	企業への質問を考える	ジョブ・カード「キャリア・プラン作成補助シート 企業へ質問してみましょう」を使用。 自分が希望する就職先への質問事項を考える。
8		自身が考えた企業への質問をグループ内で発表、共有、ディスカッション。

9	社会人基礎力を学ぶ	ジョブ・カード「キャリア・プラン作成補助シート 社会人基礎力を試してみよう」を使用。
10	グループディスカッション	グループディスカッションについて学ぶ。グループで実践する。
11		
12	試験対策	ことわざや四字熟語、漢字、計算などの筆記試験対策を行う。
13		
14	実践	実践小テスト実施
15	総合授業	総まとめ

シラバス

科目の基礎情報1

授業形態	講義	科目名	就職対策Ⅱ		
必修選択	選択	(学則表記)	就職対策Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容研究科	1	15
使用教材	リクルートガイドブック		出版社	なし	

科目の基礎情報2

授業のねらい	社会人としての自覚を持たせ、卒業後には周囲から愛され必要とされる人間性を身に付ける				
到達目標	社会のマナーやルール、一般常識を理解し自分にあった就職先を見つける				
評価基準	テスト40%、授業態度30%、提出物30%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格					
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員				実務経験	
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	就職に向けての意識付け	就職未決定者に関しては就職スケジュールを立てていく。 決定者に関しては企業に入社するにあたってどのように今後の学校生活を 過ごしていくべきか目標の設定を行う。
2		
3		
4	人生100年時代の社会人基礎力	<ul style="list-style-type: none"> ・3つの能力と12の能力要素を学ぶ ・一般常識、マナーを学ぶ ・社会に出るにあたって必要となる一般的な漢字の読み書き、計算等を学ぶ ・言葉遣いや立ち居振る舞いを学ぶ
5		
6		
7		
8		

9	社会保険や年金に関して	保険や年金の制度に関して学ぶ
10	接客ロールプレイング	<ul style="list-style-type: none"> ・人前で話す事に慣れる為、1分間スピーチの実施 ・お客様とのアイスブレイク練習 ・接客のロールプレイングを実施し、良い接客をする為の練習を行う
11		
12		
13		
14	実践	実践小テスト実施
15	総合授業	総まとめ

シラバス

科目の基礎情報1

授業形態	実技	科目名	美容ベーシックB		
必修選択	選択	(学則表記)	美容ベーシックB		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容研究科	3	90
使用教材	ワインディングまたはオールウェーブ教材一式・ カットング教材一式 衛生教材一式 改正美容師実技試験課題 衛生と技術の解説 三幸学園オリジナル実技マニュアル 美容実習ノート		出版社	公益財団法人 理容師美容師試験研修センター	

科目の基礎情報2

授業のねらい	美容師国家試験 実技試験合格に向けた授業 試験時間内に合格基準を満たす技術を習得する				
到達目標	美容師国家試験 第1課題・第2課題・国家試験衛生合格レベルを習得する				
評価基準	総まとめ40% まとめ30% 授業態度30%				
認定条件	・出席が総時間数の5分の4以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	美容師国家資格（実技）				
関連科目	美容技術理論Ⅰ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	森川薫奈	実務経験	○		
実務内容	美容室勤務4年				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	国家試験第1課題・第2課題	国家試験第1課題・第2課題・美容師国家試験衛生
2	国家試験第1課題・第2課題	国家試験第1課題・第2課題・美容師国家試験衛生
3	国家試験第1課題・第2課題	国家試験第1課題・第2課題・美容師国家試験衛生
4	国家試験第1課題・第2課題	国家試験第1課題・第2課題・美容師国家試験衛生
5	国家試験第1課題・第2課題	国家試験第1課題・第2課題・美容師国家試験衛生
6	国家試験第1課題・第2課題	国家試験第1課題・第2課題・美容師国家試験衛生
7	国家試験第1課題・第2課題 まとめ	国家試験第1課題・第2課題・美容師国家試験衛生 まとめを実施する

8	国家試験第1課題・第2課題	国家試験第1課題・第2課題・美容師国家試験衛生
9	国家試験第1課題・第2課題	国家試験第1課題・第2課題・美容師国家試験衛生
10	国家試験第1課題・第2課題	国家試験第1課題・第2課題・美容師国家試験衛生
11	国家試験第1課題・第2課題	国家試験第1課題・第2課題・美容師国家試験衛生
12	国家試験第1課題・第2課題	国家試験第1課題・第2課題・美容師国家試験衛生
13	国家試験第1課題・第2課題	国家試験第1課題・第2課題・美容師国家試験衛生
14	国家試験第1課題・第2課題	国家試験第1課題・第2課題・美容師国家試験衛生
15	国家試験第1課題・第2課題 総まとめ	国家試験第1課題・第2課題・美容師国家試験衛生 総まとめを実施する

シラバス

科目の基礎情報1

授業形態	講義	科目名	美容知識Ⅴ		
必修選択	選択	(学則表記)	美容知識Ⅴ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	美容研究科	1	15
使用教材	文化論、運営管理		出版社	公益財団法人 日本理容美容試験研修センター	

科目の基礎情報2

授業のねらい	美容経営者として活躍する上で必要とする知識の基礎を理解する。 美容業界で活躍していくために、美容全般の技術と理論について習得する。				
到達目標	自身で生活の中から知識や理論を深めることができる。 美容師国家試験（筆記）に向けて適切な記述ができる。				
評価基準	テスト：50% 小テスト：30% 授業態度：20%				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	美容師国家資格				
関連科目	基礎理論・美容知識Ⅰ・美容知識Ⅱ・美容知識Ⅲ・美容知識Ⅳ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員				実務経験	
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	第1編 経営者の視点 第1章 経営とは・経営者とは 第1節 第2節 第1章 総論 第1節 総論	経営を定義、経営の必要性を教える 経営の捉え方、経営資源とは、経営計画とはを教える 第1節理容業・美容業の発生第2節江戸時代の理容業・美容業 第3節近代の理容業・美容業第4節現代の理容業・美容業 第1章小テスト
2	第1編 経営者の視点 第1章 経営とは・経営者とは 第5節 第6節 第2章 理容業・美容業の経営について第1節 第2節 第3章ファッション文化史日本編 第1節 縄文・弥生・古墳 第3章ファッション文化史日本編 第2節 古代（飛鳥・奈良・平安時代）	経営戦略とは何か/良い店の実現を教える 業界の概要/競争と方向性の変化を教える 縄文・弥生・古墳時代の髪型・化粧・服装について 古代の髪型・化粧・服装について

3	<p>第2章 理容業・美容業の経営について 第3節 第4節</p> <p>第3章 資金の管理 第1節 第2節</p> <p>第3章ファッション文化史日本編 第3節 第4節</p> <p>第3章ファッション文化史日本編 第5節 近世Ⅱ（江戸時代）</p>	<p>美容業界のサービスについて教える</p> <p>資金管理の重要性と資金の流れを把握することを教える</p> <p>中世・近世Ⅰの髪型・化粧・服装について</p> <p>江戸時代の髪型について</p>
4	<p>第3章 資金の管理 第3節 第4節 第5節</p> <p>第2編人という資源 従業員としての視点 第1章 人という資源 第1節 第2節</p> <p>第3章ファッション文化史日本編 第5節 近世Ⅱ（江戸時代）</p> <p>第3章ファッション文化史日本編 第6節 近代（明治・大正・昭和20年まで）</p>	<p>会計の意味や考え方、コスト管理を教える</p> <p>各税金と、従業員に対する労務管理の基本を教える</p> <p>江戸時代化粧・服装について日本髪 髪型・服装・日本髪小テスト</p> <p>明治の髪型・服装・化粧について</p>
5	<p>第2編人という資源 従業員としての視点 第1章 人という資源 第3節 第4節 第5節 第6節</p> <p>第2編人という資源 従業員としての点 第1章 人という資源 第2章健康・安全な職場環境の実現 第1節 第2節</p> <p>第3章ファッション文化史日本編 第6節 近代（明治・大正・昭和20年まで）</p> <p>第3章ファッション文化史日本編 第7節 現代Ⅰ（1945～1950年代）</p>	<p>モチベーションの上げ方/給与/待遇と福利厚生について教える</p> <p>労働者の権利、健康で安全な職場環境について教える</p> <p>明治の髪型・服装・化粧について</p> <p>大正、昭和の髪型・服装・化粧について</p>
6	<p>第2編人という資源 従業員としての視点 第2章健康・安全な職場環境の実現 第3節第4節</p> <p>第3章従業員としての視点から 第1節</p> <p>第2編人という資源 従業員としての視点 第3章 従業員としての視点から 第2節 第3節</p> <p>第3章ファッション文化史日本編 第8節 現代Ⅱ（1960～1970年代）</p> <p>まとめ</p>	<p>美容業の健康課題、社会人の責任を教える</p> <p>各種社会保険について教える(1)</p> <p>1960～1970年代の髪型・化粧・服装について</p> <p>まとめを実施する</p>
7	<p>まとめ 振り返り テスト解説</p> <p>第3章ファッション文化史日本編 第9節 第10節</p> <p>総まとめ</p>	<p>授業習得度の確認</p> <p>テスト回答&解説</p> <p>テストの振り返り・解説</p> <p>1980～2000年代の髪型・化粧・服装について</p> <p>総まとめを行う</p>
8	<p>第2編人という資源 従業員としての視点 第3 章従業員としての視点から 第3節 第4節</p> <p>第2編人という資源 従業員としての視点 第3章 従業員としての視点から 第5節 第6節</p> <p>第3編顧客のために 第1章サービスデザイン 第1節</p> <p>第4章ファッション文化史西洋編 第1節～第3節</p> <p>古代エジプト・ギリシャ・ローマ・ゲルマン</p> <p>第4章ファッション文化史西洋編 第4節中世ヨーロッパ</p>	<p>各種社会保険について教える(2)</p> <p>キャリアプランを組立てる重要性、サービスデザインについて教える</p> <p>古代エジプト・ギリシャ・ローマ・ゲルマンの髪型、化粧、服装について</p> <p>中世ヨーロッパ、16世紀の髪型・化粧・服装について</p>

9	<p>第3編顧客のために 第1章 サービスデザイン第2節 第3節</p> <p>第3編 顧客のために 第1章 サービス・デザイン 第4節 第5節</p> <p>第4章ファッション文化史西洋編 第5節近世Ⅰ（16世紀）第6節近世Ⅱ（17世紀）</p> <p>第4章ファッション文化史西洋編 第7節近世Ⅲ（18世紀）</p>	<p>価値の構造、顧客満足、システムについて教える</p> <p>人の価値と顧客の価値の多様性について教える</p> <p>16世紀、17世紀の髪型・化粧・服装について</p> <p>18世紀の髪型・化粧・服装について</p>
10	<p>第3編 顧客のために 第1章 サービス・デザイン第6節</p> <p>第2章マーケティング第1節</p> <p>第3編 顧客のために 第2章 マーケティング 第2節 第3節</p> <p>第4章ファッション文化史西洋編 第8節近代Ⅰ（18世紀末～19世紀初め） 第9節近代Ⅱ（19世紀）</p> <p>第4章ファッション文化史西洋編 第10節現代Ⅰ（1910～1920年代） 第11節現代Ⅱ（1930～1940年代前半）</p>	<p>サービスの範囲、美容系のマーケティングの特徴と要点を教える</p> <p>マーケティングミックスの短期的要因について教える(1)</p> <p>18世紀、19世紀の髪型・化粧・服装について 近世Ⅰ～近代小テスト</p> <p>1910～1940の髪型・化粧・服装について</p>
11	<p>第3編 顧客のために 第2章 マーケティング 第4節</p> <p>第3編 顧客のために 第2章 マーケティング 第5節 第6節</p> <p>第4章ファッション文化史西洋編 第12節現代Ⅲ（1940後半～1950年代） 第13節現代Ⅳ（1960年代）</p> <p>第4章ファッション文化史西洋編 第14節現代Ⅴ（1970年代）</p>	<p>マーケティングミックスの短期的要因について教える(2)</p> <p>マーケティングミックスの長期的要因について教える</p> <p>1940～1960の髪型・化粧・服装について</p> <p>1970の髪型・化粧・服装について</p>
12	<p>第3編顧客のために第3編 顧客のために 第2章マーケティング 第7節</p> <p>第3章サービスにおける人の役割 第1節</p> <p>第3編 顧客のために 第3章 サービスにおける人の役割 第2節 第3節</p> <p>第4章ファッション文化史西洋編 第15節現代Ⅵ（1980年代）</p> <p>第4章ファッション文化史西洋編 第16節現代Ⅶ（1990～2010年代）</p>	<p>サービスのシステム化と接客について教える</p> <p>接客の計画と準備、接客力の高め方と接客の実践法について教える(1)</p> <p>1980の髪型・化粧・服装について</p> <p>1990～2010年代の髪型・服装・化粧について</p>
13	<p>第3編 顧客のために 第3章 サービスにおける人の役割 第4節 第5節</p> <p>第3編 顧客のために 第3章 サービスにおける人の役割第6節 第7節</p> <p>第5章 礼装の種類 第1節 和装の礼装 第2節 洋装の礼装</p>	<p>接客の実践について教える(2)(3)</p> <p>接客の実践について教える(4)(5)</p> <p>和装の礼装について</p>
14	<p>第3編 顧客のために 第3章 サービスにおける人の役割第8節 第9節 第10節</p>	<p>接客トラブルの対応、クレームや事故への対策・対処方法について教える</p>
15	<p>総まとめ</p>	<p>後期授業内容の習得度の確認</p>